

別室登校の実態と個人カルテの提案

宮本正一(miyamoto@gifu-u.ac.jp)・別府悦子
 (岐阜大学教育学部) (中部学院大学)
 key words: 不登校、別室登校、登校の水準

I. はじめに

不登校の数は減少したと報道されているが、学校現場では学校には登校するが、所属学級には入れず、保健室や相談室で学校生活を送る別室登校の数もよく目にする。

本研究の目的は、岐阜県 A 市において別室登校と不登校の実態調査を実地し、個人毎の登校実態を個人カルテ図に表現して別室登校者への支援を共有化する試みを行ったので報告する。

II. 方法

- (1) 対象 岐阜県 A 市にあるすべての小学校 8 校と中学校 4 校で、別室登校、あるいは不登校をしている児童生徒。彼らを担当している学級担任、適応指導教室等の指導員。
- (2) 実施時期 2005 年 4 月から 1 年間
- (4) 手続き 学級担任、適応指導教室等の指導員に毎日、別室登校、あるいは不登校をしている児童生徒への対応を簡単な個人カルテに記載を求めた。

III. 結果と考察

小学校 8 校と中学校 4 校で、別室登校、あるいは不登校をしている児童生徒の一覧を表 1 に示した。小学校では 1 名のみが別室登校の状態にあった。

中学校	生徒数	学級数	別室登校	%
B	257	9	6	2.33
C	355	11	7	1.97
D	364	11	5	1.37
E	42	4	0	0
計	1018	35	18	1.77

表 1 別室登校・不登校の割合

E 中学は小規模校であり、別室登校、あるいは不登校の生徒はいなかった。他の 3 つの中学校では約 2%であった。

	中 1	中 2	中 3	計
男	4	3	7	14
女	2	0	2	4
計	6	3	9	18

表 2 別室登校・不登校の学年と性別

別室登校・不登校への効果的な支援を図り、学校内での連携を深めるために、「登校の水準」を以下のようにして、毎日の個人カルテを作成した。(8)自分の教室でほぼ全ての授業を受けている、(7)校内の相談室等から自分の教室に特定の授業を受けに行くことができた、(6)始業式・卒業式・音楽会等の行事に部分的に参加できた、(5)担任や相談員等が家庭に迎えに行かなくとも登校。遅刻と早退。教室には入れず、(4)担任や相談員等が家庭に迎えに行き、登校。遅刻と早退。教室には入れず、(3)放課後・夜間等、校舎を散歩したり、教師と会話をしたりする、(2)家庭訪問で本人と会話を交わす事ができた。登校せず、(1)家庭訪問するが本人と接触できず、家人と話等をする。学校で親等と話ができ、(0)接触しなかった。できなかった。

図 1 は中学生男子の別室登校カルテを示した。横軸は登校すべき月日で、約 7 ヶ月間である。

本研究は文部科学省科学研究費基盤研究(C) (課題番号 15530520; 代表別府悦子) による。

(MIYAMOTO, Masakazu & Beppu, Ethuko)



